

## 大学院医薬保健学総合研究科 創薬科学専攻（博士後期課程）

定員 11名

### ● 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー；AP）

本課程では、薬学を中核に据えた学問分野（薬学・医学・保健学関連）に関する最先端の知識や技能と高い研究能力の醸成を目的とします。創薬科学における先進的且つ発展的な教育・研究を通して、豊かな創造力、高い見識、卓越した研究企画能力、強いリーダーシップ、さらに国際的視野で活躍できる能力を備えた、自立した真の研究者を養成します。具体的には、製薬企業等において新薬開発に関する研究や企画立案に携わる者、大学教員、公的機関での研究者、医療・厚生・薬事・環境等の分野での行政担当者などとして活躍する人材を育成します。将来このような職種での活躍を目指す学生であれば、経験した学問分野を問わずに受け入れます。

入学者選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、これまでに行った研究課題に対する理解と熱意、さらに将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視します。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力、研究課題の理解力等を総合して判定します。

### ● 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー；CP）

本課程では、薬学を中核に据えた学問分野における最先端の知識と高い研究能力を兼ね備えた人材を育成するため、先鋭的なカリキュラム構成を採用しています。課程を構成する教員のすべてが、自分が専門とする領域の「創薬科学専門科目」を開講し、学生はそこから興味のあるものを選択して履修します。これらの講義科目はいずれも最先端の知識を教授するものであり、学生はそれを習得して知識を深め、自分の研究課題の遂行に役立てます。加えて、主任指導教員が担当する「薬科学特別演習」では、文献読解とその説明・伝達能力及び自分の研究成果を発表する能力が養成されます。これらの科目群の履修により習得した知識と技術を使い、学生は全修学期間を通して、主任指導教員の指導のもとに希望する専門分野における「薬科学特別研究」に取り組みます。この科目においては、研究能力だけでなく、論文執筆能力及び発表・討論能力ならびに国際的視野で活躍するための英語能力の養成も行われます。

### ● 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー；DP）

本課程では、薬学を中核に据えた学問分野における最先端の知識と高い研究能力を獲得し、国際的視野で活躍できる学生を修了させることを目的としています。それを達成するため、講義科目群の履修においては課題レポートなどによる修得度の判定がなされます。さらに、研究能力、論文執筆能力、及び発表・討論能力の習得度を判定するため、研究成果を記述した学位論文の作成を義務付け、その内容とともに当該学生による公開での口頭発表と討論が審査されます。なお、研究成果が審査付きの学術誌に公表されることが求められています。全てに合格した学生に、博士(創薬科学)または博士(学術)が授与されます。

### ● 想定される就職先

- ・ 製薬関連企業（開発研究者、学術研究員）
- ・ 国公立または私立の大学（教員）
- ・ 公的な研究機関（研究員）
- ・ 行政機関（行政担当者）